

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成20年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

事業所名称	第一しいのき学園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
評価者	修了者No.H0302032 修了者No.H0301058 修了者No.H0302033 修了者No.H0301059
評価実施期間	2008年12月10日～2009年3月30日

全体の評価講評

▶ 詳細はこちらから

💡特に良いと思う点

- ・ 高齢者、障害者、児童施設を運営する法人の総合性を生かして活動している
- ・ 家族との連携・協力を大切にして利用者支援にあたりとともにトワイライトステイを実施して家族支援にも取り組んでいる
- ・ ナイスデイサポート事業の開始や機械入浴設備の整備など新しい事態への対応策を積極的に講じている

✔さらなる改善が望まれる点

- ・ 新法による生活介護事業に対応する支援プログラムの検討を
- ・ 新事業体系への移行に合わせて早急に手引書等の見直し・整備を
- ・ 職員の事業評価を現状分析の材料にして職場の運営改善を

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ 詳細はこちらから

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら ・ 日中活動の中で利用者が自分の状況に合わせて活動できるよう計画をもとに支援している ・ 利用者の特性に合わせて絵カードを使うなどコミュニケーションのとり方を工夫している ・ 自立に向けて身の回りのことなど自分でできることを増やしていくよう支援している	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ・ 日中活動にはさまざまなメニューを用意して利用者が選択できるようしている ・ 利用者が自分のペースで活動できるように時間にゆとりを持たせ、環境も整えている	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら ・ 本部の栄養課と協力してバランスのとれた、おいしい食事を提供している ・ 利用者の個別事情に合わせて刻み食や治療食、代替食を提供している ・ 明るく楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように環境を整えている	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら	

- ・日常生活上の支援は一日の生活リズムを身につけるよう個別支援計画をもとに行っている
- ・身の回りのことはできる範囲で自分でやるように促しながら支援している

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・定期健康診断や精神科医による健康相談を実施して、結果を利用者・家族に伝えている
- ・服薬チェック表により誤りなく服薬できるよう支援している
- ・日頃から利用者の健康状態を把握し、急な体調変化にも対応できるよう体制を整えている

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・福栄会まつりなどいろいろな行事を行い利用者が多様な体験ができるよう支援している
- ・施設の共用部分は利用者が交代で清掃し、清潔な環境を維持するよう努めている
- ・利用者の意見や要望を聞く機会を設けて運営に反映するようにしている

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A⁺

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・家族との連携・交流を大切にして利用者を支援している
- ・短期入所施設の情報の提供・紹介を行なっている

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】[詳細はこちら](#)

- ・短期入所施設をはじめ地域の福祉に関する情報を利用者の状況に合わせて提供している
- ・利用者が地域の資源を利用できるようないろいろな行事や催し物の情報を提供している

評点の内容
▶ [詳細はこちらから](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果

▶ [詳細はこちらから](#)

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の
順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
8/43

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1. 食事の時間は楽しみのなっているか	100.0% どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
2. 活動は楽しいか	100.0% どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
3. 利用者は必要なときに支援を受けているか	75.0% 25.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
4. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	87.0% 12.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
5. 利用者の気持ちは尊重されているか	100.0% どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
6. 職員の対応は丁寧か	87.0% 12.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
7. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか	62.0% 25.0% 12.0% いいえ:0.0%
8. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画についての説明はわかりやすかったか	83.0% 16.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
9. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	はい:0.0% どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%

10. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	87.0% 12.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
11. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	87.0% 12.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%
12. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	37.0% 62.0% はい:0.0% 無回答・非該当:0.0%

はい

どちらともいえない

いいえ

無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 全体の評価講評

全体の評価講評

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼全体の評価講評

▼コメント

平成20年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

事業所名称	第一しいのき学園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
評価者	修了者No.H0302032 修了者No.H0301058 修了者No.H0302033 修了者No.H0301059
評価実施期間	2008年12月10日～2009年3月30日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

・高齢者、障害者、児童施設を運営する法人の総合性を生かして活動している

法人は高齢者、障害者、児童施設を運営する総合的な福祉法人であり、学園と同じ建物には知的障害者の通所授産施設や高齢者の施設が併設されている。この条件を生かして作業の可能な一部利用者には授産活動のプログラムを提供して手当も払っている。授産施設の利用者とは食堂で一緒に食事するなど日常的に触れ合う機会がある。法人の障害者の短期入所施設とも相互に連携を図っている。このように総合的に福祉事業を運営している強みを生かして活動している。

・家族との連携・協力を大切にして利用者支援にあたりとともにトワイライトステイを実施して家族支援にも取り組んでいる

利用者は重度・最重度障害の人が多く、支援には家族との連携、協力が重要となる。日常的には連絡帳により相互に情報を交換して支援にあたっている。家族との面談、家庭訪問、福栄会まつりなどの行事への参加を通じて家族と学園の相互理解を深め、学園連絡会やグループ参観・懇談会を開催して利用者支援の内容や学園の運営について話し合っている。家族会の活動に対する支援も行っている。また、トワイライトステイ(通所終了後利用のサービス)や短期入所施設との連携により家族の支援にも積極的に取り組んでいる。

・ナイスデイサポート事業の開始や機械入浴設備の整備など新しい事態への対応策を積極的に講じている

19年度には利用者の日中活動の充実のためにゲーム場のボールプール用のボール洗浄作業を導入している。また、20年度には前年の試行事業を踏まえて障害児・者のナイスデイサポート事業(特別支援学校生の放課後支援、夏休みなどの休暇期間の障害児・者の預かり支援)を開始するとともに21年4月からの自立支援法による生活介護事業への移行に備えて機械入浴設備の整備を行なっている。このように新しい事態に対する対応策を積極的に講じている。

✔さらなる改善が望まれる点

・新法による生活介護事業に対応する支援プログラムの検討を

現在は、最重度・重度の利用者にはレクリエーションなどの日中活動や健康維持の充実を重点的にを行い、重度・中度の利用者には健康維持を中心にしながら作業活動も取り入れて支援している。21年4月から自立支援法による生活介護事業へ移行することにしており、支援内容の充実が期待される。現在、見直しに取り組んでいるが、機能訓練や精神・心理面でのサポート等を含めて支援プログラムを検討することが望まれる。

・新事業体系への移行に合わせて早急に手引書等の見直し・整備を

法人は障害者、高齢者、子どもなどを対象にした複合的な事業体であり、定期的な人事異動等に対応するためにはサービスの基本事項や手順等を明確にした手引書の必要性は高い職場であると考えられる。20年度はマニュアルの見直し・整備を課題の一つとしているが、新しい事業体系への移行の準備等もあつて計画どおりには進んでいない。新年度からは生活介護事業に移行するということであり、現在の手引書をもとに見直し・整備を急ぐことが必要と思われる。今後の取り組みを期待したい。

・職員の事業評価を現状分析の材料にして職場の運営改善を

今回の職員の事業評価では理念・基本方針の認識度、事業所の計画の策定・実施に関する項目や人事制度や人材育成に関する項目についての評価は高いとはいえない結果である。法人の基本方針や重点課題(職員活動指針を

含む)、学園の事業計画と職員一人ひとりの仕事の結びつきはわかりやすくなっているか、職員の意識の把握や運営への参画を促す取り組みは十分かなど現状分析の素材として活用し、職場の運営改善につなげていくことが望まれる。

[このページの一番上へ](#)

コメント

利用者調査は、聞き取りが可能な利用者を対象に評価者が面談して実施した。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 組織マネジメント分析結果

組織マネジメント分析結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

- ▼リーダーシップと意思決定
- ▼経営における社会的責任
- ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
- ▼計画の策定と着実な実行
- ▼職員と組織の能力向上
- ▼情報の保護・共有
- ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成20年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

[<<前の評価結果を見る](#)

事業所名称	第一しいのき学園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
事業評価実施期間	2009年1月19日～2009年3月30日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】 詳細はこちら	
- 法人の基本方針を事業計画書やしおりに明示し、職員、利用者・家族に周知している - 施設長、役職者は明示された任務と責任に基づいて行動している - 学園の運営のしくみや重要な意思決定の内容は職員に周知されている	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域との関係機関との連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら	
「職員活動指針」等を明示して職員に徹底するとともに点検活動にも取り組んでいる - 広報活動に積極的に取り組み、地域に対する情報の発信・開示を行なっている - 福祉の機能や専門性をいかし、地域社会といろいろな関わりを持ち活動している	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A
【講評】 詳細はこちら	
苦情解決のしくみや第三者委員の周知を図り、利用者の苦情や意見の解決に努めている	

- 給食の嗜好調査や第三者評価の利用者調査を改善課題の検討に役立てている
- 地域の福祉ニーズに応じて、新たなサービスを提供している

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	A
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A
2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	評点
1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら 「品川区地域福祉計画」に沿って、年度事業計画を策定し、計画的に取り組んでいる - 事業計画は利用者の状況や地域福祉ニーズ、事業環境等を踏まえて検討されている - 事故の再発防止・予防をはじめ利用者の安全を確保するために取り組んでいる	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	A
2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	評点
1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	A
2. 職員のやる気向上に取り組んでいる	A
【講評】 詳細はこちら - 職員の目標を明示して、育成・評価・報酬を連動したマネジメントを行なっている - キャリア別研修、資格取得の奨励等を実施して職員の能力向上に取り組んでいる - 職員意向調査等により職員の意識を把握し、褒賞制度を設けてやる気の向上に努めている	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	A
2. 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	A
【講評】 詳細はこちら - 情報はその重要性や機密性によりアクセス権限を設定して管理している - 個人情報の利用目的・開示請求に関しては文書にまとめて施設内に掲示している	

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 生活介護事業への移行に向けて支援内容の見直し、設備の整備に取り組んでいる	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点

1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 自立支援法に関する職員研修会を開催し、生活介護事業について職員の理解を深めている	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 食堂の改修工事を実施して利用者が使いやすいように改善している	
4. 事業所の財政等において向上している	評点
1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら 引続き、長期に欠席している利用者にアプローチして利用率向上に向けて取り組んでいる	
5. 前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	評点
1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している	A+
【改善の成果】 詳細はこちら 特別支援学校生の放課後支援等の要望に応じてナイスデイサポート事業を開始した	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > サービス分析結果



サービス分析結果



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目

平成20年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

[<<前の評価結果を見る](#)

事業所名称	第一しいのき学園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
事業評価実施期間	2009年1月19日～2009年3月30日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
【講評】 詳細はこちら ● 「学園生活のしおり」には、支援の内容等が詳しく、わかりやすく説明されている ● 法人が広報誌を行政や関係機関に配布して、第一しいのき学園の情報も提供している ● 利用希望者の見学は随時受け入れ、施設を見てもらい、サービスについて説明している	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら ● サービスの基本的ルール、重要事項について説明して、利用者・家族の同意を得ている ● 利用者の個別事情や要望、生活等を踏まえて本人のペースを尊重して支援している ● 短期入所施設などには本人の同意を得て情報を提供して支援の継続性に配慮している	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	A
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	A
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A
【講評】 詳細はこちら ● アセスメントにより利用者の状況、ニーズ、課題を明確にして、支援している ● 個別支援計画の作成・見直しは利用者・家族の希望を聞いて行い、同意を得ている ● ケース記録には支援内容と利用者の状態の推移を記録し、職員が共有・活用している	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	A
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
【講評】 詳細はこちら ● 利用者に関する情報を外部とやりとりする時には、その都度、本人の同意を得ている ● 利用者に声をかけをして、できるだけ利用者のサイン(意思)を確認して支援している ● 利用者対応について職員が心がけるべきことを明示して、点検活動にも取り組んでいる	
評点の内容 ▶ 詳細はこちら	
事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	A
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	B
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
【講評】 詳細はこちら	

- 職員が作成に関わり、サービスの基本事項・手順をまとめている
- 新事業体系への移行に合わせてマニュアル等の見直し・整備を急ぐことが望まれる
- 職員会議での基本事項の徹底など、さまざまな面から業務水準の確保に取り組んでいる

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している	A
【講評】 詳細はこちら ● 日中活動の中で利用者が自分の状況に合わせて活動できるよう計画をもとに支援している ● 利用者の特性に合わせて絵カードを使うなどコミュニケーションのとり方を工夫している ● 自立に向けて身の回りのことなど自分でできることを増やしていくよう支援している	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 日中活動にはさまざまなメニューを用意して利用者が選択できるようしている ● 利用者が自分のペースで活動できるように時間にゆとりを持たせ、環境も整えている	
3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
【講評】 詳細はこちら ● 本部の栄養課と協力してバランスのとれた、おいしい食事を提供している ● 利用者の個別事情に合わせて刻み食や治療食、代替食を提供している ● 明るく楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように環境を整えている	
4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 日常生活上の支援は一日の生活リズムを身につけるよう個別支援計画をもとに行っている ● 身の回りのことはできる範囲で自分でできるように促しながら支援している	
5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 定期健康診断や精神科医による健康相談を実施して、結果を利用者・家族に伝えている ● 服薬チェック表により誤りなく服薬できるよう支援している ● 日頃から利用者の健康状態を把握し、急な体調変化にも対応できるよう体制を整えている	
6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 福栄会まつりなどいろいろな行事を行い利用者が多様な体験ができるよう支援している ● 施設の共用部分は利用者が交代で清掃し、清潔な環境を維持するよう努めている ● 利用者の意見や要望を聞く機会を設けて運営に反映するようにしている	
7. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A ⁺
【講評】 詳細はこちら ● 家族との連携・交流を大切に利用者を支援している ● 短期入所施設の情報の提供・紹介を行なっている	
8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
【講評】 詳細はこちら ● 短期入所施設をはじめ地域の福祉に関する情報を利用者の状況に合わせて提供している ● 利用者が地域の資源を利用できるよういろいろな行事や催し物の情報を提供している	
評点の内容 ▶ 詳細はこちらから	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 利用者調査結果

利用者調査結果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

▼調査概要 ▼調査結果全体のコメント ▼調査結果

平成20年度

知的障害者通所更生施設[経過措置]

<<前の評価結果を見る

事業所名称	第一しいのき学園
評価機関名称	有限責任中間法人 日本福祉サービス評価機構
利用者調査実施期間	2009年2月6日～2009年2月26日

調査概要

- **調査対象**: 21年2月現在の利用者43人の内、聞き取りが可能な利用者8人(男性3人、女性5人)を対象に実施した。
- **調査方法**: 聞き取り方式
評価者が直接、利用者に面談して聞き取り調査を行なった。
- 利用者総数: 43人
- 共通評価項目による調査対象者数: 8人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 8人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 18.6%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

「はい」と答えた人の比率は全体的に高い。総合的な感想では「大変満足」と「満足」の合計は62.5%である。「大変不満」が25.0%(2人)という結果であるが、「ここに来るのは楽しい」としながら「大変不満」を選択した人もいることを付け加えておく。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

1. 食事の時間は楽しみになっているか

はい	8人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
おいしい、楽しいという声がある。

2. 活動は楽しいか

はい	8人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
楽しいという声が複数ある。

3. 利用者は必要ときに支援を受けているか

はい	6人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特になし。

4. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか

はい	7人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】

特になし。

5. 利用者の気持ちは尊重されているか

はい	8人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
考えていることをわかってくれるという声がある。

6. 職員の対応は丁寧か

はい	7人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特になし。

7. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望を聞かれているか

はい	5人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特になし。

8. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画に関しての説明はわかりやすかったか

はい	5人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特になし。

9. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか

はい	0人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

10. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか

はい	7人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特になし。

11. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか

はい	7人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特になし。

12. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか

はい	0人	どちらともいえない	3人	いいえ	5人	無回答・非該当	0人
----	----	-----------	----	-----	----	---------	----

【コメント】
特になし。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成19年度評価結果](#)

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > リーダーシップと意思決定



リーダーシップと意思決定



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

法人の基本方針を事業計画書やしおりに明示し、職員、利用者・家族に周知している

法人の基本方針（運営方針とサービス方針）は年度の事業計画書に記載されており、事業計画書は職員全員に配布されている。職員に対しては基本方針、事業計画を職員会議等で説明して理解を深めるように努めている。利用者・家族に対しては基本方針を「学園のしおり」に記載して、説明している。

施設長、役職者は明示された任務と責任に基づいて行動している

法人の運営規程に施設長をはじめ役職者の任務や責任が明示されている。また、学園の業務分掌も明示している。施設長、役職者はその任務と責任に基づいて行動している。

学園の運営のしくみや重要な意思決定の内容は職員に周知されている

法人の運営会議、課長会議、係長会議、専門部会と連動して学園の運営が行われている。学園には運営会議、主任・リーダー会、グループ会議、職員会議が設けられ、それぞれの会議の役割も明確にされている。重要な意思決定の経緯や内容は会議等を通じて職員に周知するよう努めている。利用者・家族に対しても重要な案件については必要に応じて伝えている。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	○ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

「職員活動指針」等を明示して職員に徹底するとともに点検活動にも取り組んでいる

法人が「職員活動指針」と「より良い福栄会職員を目指して」を策定、事業計画書にも掲載して年度初めの職員会議で説明し職員に徹底するよう努めている。「職員活動指針」は施設内に掲示もしている。品川区施設サービス向上研究会のセルフチェックにより守るべき法・規範・倫理等についての点検活動にも取り組んでいる。

広報活動に積極的に取り組み、地域に対する情報の発信・開示を行なっている

法人の福栄会は品川区のバックアップにより設立されており、理事会、評議員会も地域の関係者により構成されている。設立以来、地域に開かれた組織として広報活動に積極的に取り組んでいる。広報紙「もみじ」を年3回発行して、第一しいのき学園をはじめ福栄会の運営する全事業所の活動や利用者の様子を紹介している。「もみじ」は利用者をはじめ品川区や福祉団体・施設、関係者に広く配布されている。ホームページによる情報提供も積極的に行なっている。第三者評価の報告書も施設内に掲示している。

福祉の機能や専門性をいかし、地域社会といろいろな関わりを持ち活動している

福祉施設としての機能や専門性を活かした活動では、会議室などの地域の団体への開放、外部研修会への講師派遣、専門学校等の実習生の受け入れなどを行なっている。ボランティアはクラブ活動の指導、旅行付き添い、夏まつりなどの行事援助、整髪・美容指導などいろいろな場面に受け入れている。区内の障害者施設連絡会に参加し、情報交換や研究会活動に共同で取り組んでいる。また、品川区施設サービス向上研究会に参加し、福祉施設のサービス向上を目指している。

[このページの一覧上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A	
標準項目	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A	
標準項目	○	事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
	○	地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み		

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A	
標準項目	○	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
	○	ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
	○	ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている

A+の取り組み	
---------	--

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A	
標準項目	○	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
	○	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト
評価結果詳細
全体の評価講評 事業評価結果 組織マネジメント分析結果 サービス分析結果 利用者調査結果 事業者のコメント
評点の見方
他年度の評価結果
平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者意向や地域・事業環境の把握と活用



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

苦情解決のしくみや第三者委員の周知を図り、利用者の苦情や意見の解決に努めている

苦情解決のしくみについては「学園のしおり」に明記して周知を図っている。第三者委員の氏名、電話番号は「学園のしおり」に記載するとともに施設内に掲示している。「意見箱」も設置している。第三者委員は年に2回、苦情解決サービス向上委員会に出席して苦情解決に関する相談に対応している。主な苦情とその対応の経過については事業報告書に記載して報告している。

給食の嗜好調査や第三者評価の利用者調査を改善課題の検討に役立てている

給食については嗜好調査を行い、行事や旅行については利用者・家族の意向を聞き、献立や企画に反映するようにしている。また、第三者評価の中で行なわれる利用者調査の結果を利用者の意向の把握と改善課題の検討に役立てている。

地域の福祉ニーズに応じて、新たなサービスを提供している

地域の福祉ニーズについては、特別支援学校や障害者団体などの会合等に参加して収集に努めている。その中で地域のニーズに応じてトワイライト事業(通所終了後の利用)やナイスデイサポート事業(特別支援学校生の放課後の預かり等)などに取り組んでいる。福祉事業の動向については、区や社会福祉協議会等の会合や研修会を通じて収集している。これらの情報等を今後の事業にいかしていくために整理・分析している。

[このページの一番上へ](#)

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点	A	
標準項目		苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
		利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A	
標準項目		利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
		事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
		利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み		

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A	
標準項目		地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
		福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
		事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

「品川区地域福祉計画」に沿って、年度事業計画を策定し、計画的に取り組んでいる

品川区は長期計画として「品川区地域福祉計画」を策定しており、法人は区の福祉施策と一体となって、地域福祉を推進することを基本方針として各種事業を運営している。年度の事業計画も区の施策に基づいて策定している。短期の活動についても、年度事業計画に基づいて計画的に取り組んでいる。

事業計画は利用者の状況や地域福祉ニーズ、事業環境等を踏まえて検討されている

事業計画の一環として主要な会議の年間日程が編成されており、課題の明確化、計画策定の時期・手順等は明確になっている。事業計画の内容も利用者の状況や地域の福祉ニーズ、事業環境を踏まえて検討されている。計画の執行にあたっては、重点テーマや利用率目標の設定、経費支出のポイント等の明示など目標を明確にするよう努めている。計画の策定から執行に至る過程には職員もいろいろな形で参画しているが、今回の職員の事業評価では、この点に関する評価は必ずしも高いとは言えない。検討の素材としていかしていくことが望まれる。

事故の再発防止・予防をはじめ利用者の安全を確保するために取り組んでいる

事故やヒヤリハットの事例は文書で報告するようにして、事例をもとに再発防止や予防策をまとめている。災害対策については、同じビル内の法人の施設と共同で避難訓練を実施するとともに消防署等との連携体制を整えている。また、近隣の4つの町内会と災害応援協定を締結して、非常時に備えている。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○	年度単位の計画を策定している
	○	短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み		

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	A	
標準項目	○	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○	課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○	計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○	計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み		

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	○	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○	計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	○	計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み		

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A	
----	---	--

標準項目	○	利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 職員と組織の能力向上

職員と組織の能力向上

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

職員の目標を明示して、育成・評価・報酬を連動したマネジメントを行なっている

職員の目標として「より良い福祉会職員を目指して」と20年度の「職員活動指針」が示されている。「自己点検」「業績評価」に基づく人事考課制度を実施して、職員の育成・評価・報酬が連動した人材マネジメントを行なっている。採用をはじめ職員の人事は法人の所管である。法人は毎年、意向調査により職員の希望や意向を把握して育成や配置の参考にしている。

キャリア別研修、資格取得の奨励等を実施して職員の能力向上に取り組んでいる

職員の能力向上については、法人のキャリア別の研修計画、資格取得の奨励と助成制度等に基づき、上司面接で本人の希望を聞いて年間の研修計画を立てている。東社協など外部研修会への派遣や新任者など必要な職員にはOJTを実施している。研修の成果については報告書の提出や職員会議での報告で確認するとともに職員が共有できるようにしている。職員には業務分掌により担当する業務を明示し、報告・連絡・相談を適切に行なうよう指導している。

職員意向調査等により職員の意識を把握し、褒賞制度を設けてやる気の向上に努めている

職場の安全衛生問題については毎月、安全衛生委員会を開催して協議している。職員のメンタルケアにも取り組んでいる。意向調査や職員面接による職員の意識の把握及び職員褒賞制度の設置等により職員のやる気・働きがいの向上にも取り組んでいる。今回の職員の事業評価ではこのカテゴリーの評価も高いとは言えないので、検討の素材としていかしていくことが望まれる。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A
標準項目	○ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	○ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	○ 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	○ 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	○ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	○ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
	○ 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	A

標準項目	○	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 情報の保護・共有



情報の保護・共有



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

情報はその重要性や機密性によりアクセス権限を設定して管理している

情報に関してはその重要性や機密性によりアクセス権限を設定して管理するとともに必要な人が必要な時に活用できるように整理している。特に利用者に関する情報は支援スタッフ全員が共有・活用できるようにしている。情報の更新は適宜行なわれている。

個人情報の利用目的・開示請求に関しては文書にまとめて施設内に掲示している

個人情報の利用目的や開示請求に関しては「保有個人情報に関する事項の公表について」という文書にまとめて施設内に掲示している。また、個人情報保護規程(法人制定)も閲覧できるようにしている。職員に対しては職員会議で個人情報保護の意義を徹底するとともにセルフチェックなどにより点検活動にも取り組んでいる。実習生、ボランティアに対してはオリエンテーションの際に個人情報保護の趣旨を説明して徹底を図っている。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	A	
標準項目	☐	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	☐	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
	☐	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み		

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	A	
標準項目	☐	事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	☐	個人情報の保護に関する規定を明示している
	☐	開示請求に対する対応方法を明示している
	☐	個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > カテゴリー1～7に関する活動成果



カテゴリー1～7に関する活動成果

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

8-1-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

評点	A ⁺
改善の成果	生活介護事業への移行に向けて支援内容の見直し、設備の整備に取り組んでいる ①21年4月から自立支援法による生活介護事業に移行することを決定し、支援内容の見直し、機械入浴設備の整備を行なうなど準備を進めている。②前年の試行事業を踏まえて障害児・者のナイスデイサポート事業(特別支援学校生の放課後支援、夏休みなどの休暇期間の障害児・者の預かり支援)を開始し、地域の障害児・者とその家族を支援している。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

評点	A ⁺
改善の成果	自立支援法に関する職員研修会を開催し、生活介護事業について職員の理解を深めている ①新しい事業体系への移行に備えて、自立支援法に関する職員研修会を開催し、生活介護事業とそのサービスについて職員の理解を深めている。

[このページの一番上へ](#)

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A ⁺
改善の成果	食堂の改修工事を実施して利用者が使いやすいように改善している ①食堂と廊下の仕切りを撤去する改修工事を実施して、利用者が使いやすいように改善している。②機械入浴設備を設置して今後の介護入浴のニーズに対応する準備を進めている。③情報共有のレベルアップを図るために新しいPCソフトへの切り替えに向けて準備を進めている。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

評点	A
改善の成果	引続き、長期に欠席している利用者にアプローチして利用率向上に向けて取り組んでいる ①引続き、長期に欠席している利用者に対するアプローチを行い、少しずつ利用に結びつけるなど利用率の向上に向けて取り組んでいる。②利用者・家族とは日々連絡を取り、必要に応じて家庭訪問も行い、出席率の向上に向けて取り組んでいる。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

- ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

評点	A ⁺
改善の成果	特別支援学校生の放課後支援等の要望に応じてナイスデイサポート事業を開始した ①特別支援学校生の放課後支援、夏休みなどの休暇期間の障害児・者の預かり支援に対する地域の要望に応じてナイスデイサポート事業を開始している。

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービス情報の提供



サービス情報の提供



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

「学園生活のしおり」には、支援の内容等が詳しく、わかりやすく説明されている

利用希望者向けには「学園生活のしおり」が作成されている。構成は、基本方針、支援内容、家族・家族会との協力関係、食事・健康管理、入浴サービス、通園方法、その他となっており、支援内容については、いろいろな活動やグループ編成、日課、行事まで詳しく説明している。ふり仮名をつけ、わかりやすい表現を心がけている。イラストなどを使い、親しみやすい紙面づくりの工夫があると思われる。法人(福栄会)のホームページでも情報を提供している。

法人が広報誌を行政や関係機関に配布して、第一しいのき学園の情報も提供している

法人が広報紙「もみじ」を発行(年3回)し、第一しいのき学園を含めて福栄会の運営する全事業所の活動を紹介している。「もみじ」は利用者をはじめ品川区や区内の関係機関等にも広く配布されている。

利用希望者の見学は随時受け入れ、施設を見てもらい、サービスについて説明している

利用を希望する人の見学は随時受け入れている。見学者には施設を見てもらうとともに「学園生活のしおり」をもとにサービスの内容について説明している。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	○ 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	○ 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○ 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > サービスの開始・終了時の対応



サービスの開始・終了時の対応

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

サービスの基本的ルール、重要事項について説明して、利用者・家族の同意を得ている

サービスの基本的ルール、重要事項については重要事項説明書と「学園生活のしおり」により利用者・家族に説明している。サービスの内容や利用者の負担金等については利用者・家族の同意を確認し、同意書に署名・捺印してもらっている。利用者・家族の意向は入園面談記録に記入して、支援計画に反映させている。

利用者の個別事情や要望、生活等を踏まえて本人のペースを尊重して支援している

利用者の支援に必要な個別事情や要望は面談記録とアセスメントシートに記録している。支援にあたっては、利用前の生活を踏まえて本人のペースを乱さないよう心がけている。また、利用者の状況に合わせて活動や作業を調整して、不安やストレスを軽減するよう配慮している。

短期入所施設などには本人の同意を得て情報を提供して支援の継続性に配慮している

利用者が短期入所施設を利用する場合は、本人・家族の同意を得て施設に利用者に関する情報を提供して支援の継続性に配慮している。介護者の高齢化など家族の介護力の低下が進んでおり、家庭状況の把握と支援策について検討することを課題としている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A	
標準項目	○	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○	サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○	サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A	
標準項目	○	サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○	利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○	サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○	サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 個別状況に応じた計画策定・記録

個別状況に応じた計画策定・記録

利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

アセスメントにより利用者の状況、ニーズ、課題を明確にして、支援している

利用者の心身状況や生活状況はPCシステムを活用して、利用者ごとに記録(ケース記録)している。アセスメントシートは、健康、ADL、家事・社会生活・自立、コミュニケーション、日中活動・余暇の項目ごとに利用者の状況、ニーズ、課題を明らかにするようになっている。アセスメントは年2回(中間期と年度末)見直しを行っている。

個別支援計画の作成・見直しは利用者・家族の希望を聞いて行い、同意を得ている

個別支援計画は利用者・家族との個別面談により希望や意見を聞いて作成・見直しを行い、利用者・家族に説明して同意を得ている。計画を緊急に変更する必要がある時には、ケース会議やグループ会議を開催して検討している。

ケース記録には支援内容と利用者の状態の推移を記録し、職員が共有・活用している

ケース記録には具体的な支援内容と利用者の状態の推移が記録されており、支援計画とともに支援スタッフ全員が共有・活用できるようにPCに入力されている。利用者の状況については、朝礼・夕礼時に報告して職員の情報共有に努めている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	A
標準項目	☐ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	☐ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	☐ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	☐ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	☐ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	☐ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	☐ 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	A
標準項目	☐ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	☐ 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A	
標準項目	○	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○	申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講評

利用者に関する情報を外部とやりとりする時には、その都度、本人の同意を得ている

利用者に関する情報を外部とやりとりする時には、その都度、本人の同意を得ている。プライバシーへの配慮から、園の広報紙や掲示物への写真等の掲載についても本人の同意を得て行なっている。排泄の介助やおむつの交換はできるだけ同性介助とし、おむつの交換の際には衝立で囲いをするなど利用者の羞恥心に配慮して支援している。

利用者に声かけをして、できるだけ利用者のサイン(意思)を確認して支援している

意思の表出が十分ではない利用者も多いので、日常的な支援の中では声かけをして、できるだけ利用者のサイン(意思)を確認するよう努めている。利用者の価値観や生活習慣に関しても個別支援計画に記載してその点にも配慮した支援を心がけている。

利用者対応について職員が心がけるべきことを明示して、点検活動にも取り組んでいる

「より良い福栄会職員を目指して」において職員の心がけるべきことを明示して、職員に徹底するよう努めている。品川区施設サービス向上研究会のセルフチェックによる点検活動に取り組み、その結果をもとに職員会議で話し合っている。虐待等が懸念される場合には、区をはじめ関係機関と連携できるように体制を整えている。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	A
標準項目	○ 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている
	○ 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
	○ 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	○ 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
	○ 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	○ 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	○ 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

他年度の評価結果

平成19年度評価結果

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 事業所業務の標準化



事業所業務の標準化



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

講 評

職員が作成に関わり、サービスの基本事項・手順をまとめている

サービスの基本事項や手順は各種のマニュアルで明確にされている。マニュアルは職員が作成(マニュアル検討委員会)しているので、現場の実務に即した内容になっている。職員の意見や工夫・改善事例の反映にも努めている。

新事業体系への移行に合わせてマニュアル等の見直し・整備を急ぐことが望まれる

サービスの基本事項や手順等の改変・見直しは、年度の事業計画の策定に合わせて行なってきたが、規程等に明文化はされていない。20年度はマニュアルの見直し・整備を課題に設定していたが、新法による新事業体系への移行準備との関係で中断状態にある。新年度からは新しい事業体系に移行するので、早急にマニュアル等の見直しを行うことが望まれる。

職員会議での基本事項の徹底など、さまざまな面から業務水準の確保に取り組んでいる

職員会議、支援担当会議等を通じてサービスの基本事項や手順が職員全員に徹底するよう努めている。法人内研修、外部研修への参加等により職員の能力向上に取り組んでいる。事故等の事例を再発防止や予防にいかして利用者の安全確保に努めている。職員に対する指導・助言を日常的に行なっている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	A
標準項目	☐ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	☐ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	☐ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	☐ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	B
標準項目	☒ 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
	☐ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	☐ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A
標準項目	☐ 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	☐ 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	☐ 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	☐ 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	☐ 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)
[サービス分析結果](#)
[利用者調査結果](#)
[事業者のコメント](#)

評点の見方

他年度の評価結果

[平成19年度評価結果](#)
[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの実施


サービスの実施



利用者調査と事業評価(組織マネジメント項目・サービス項目)の評価手法

1. 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している

講 評

日中活動の中で利用者が自分の状況に合わせて活動できるよう計画をもとに支援している

利用者は障害の状況に応じて2グループに分かれて活動している。最重度・重度の利用者(2つの班)はそれぞれレクリエーションなどの日中活動や健康維持のための活動を重点的に行っている。重度・中度の利用者はレクリエーションなどの日中活動、健康維持活動の外に作業を取り入れている。日課は班として設定されるが、その中で利用者が自分の状況に応じて活動できるように個別支援計画をもとに支援している。

利用者の特性に合わせて絵カードを使うなどコミュニケーションのとり方を工夫している

意思表出が困難な利用者も多いので、声かけをして利用者のサイン(意思)をできるだけ確認するよう努めている。また、利用者の特性に合わせて絵カードを使うなどコミュニケーションのとり方を工夫している。

自立に向けて身の回りのことなど自分でできることを増やしていくよう支援している

利用者が自立に向けて一日の生活リズムを身につけ、身の回りのこと・コミュニケーション・集団活動への参加など自分でできることを増やしていくことを目標に支援している。

評点	A
標準項目	個別の支援計画に基づいて支援を行っている
	利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
	自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
	必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講 評

日中活動にはさまざまなメニューを用意して利用者が選択できるようにしている

クラブ活動にはダンスとウォーキング、レクリエーション活動には創作と音楽、作業活動には軽作業(割り箸袋入れ・仕切り組み立て・ボールプール用ボール洗い)と緑化作業(トイレ用品の補充・館内緑化・季節の飾りつけ)、健康維持活動には体力増進を目的とした散歩などのプログラムが用意されていて、利用者の希望や特性に応じて選択できるようにしている。その中で「その人らしい活動」を目指している。

利用者が自分のペースで活動できるように時間にゆとりを持たせ、環境も整えている

利用者が自分のペースで活動できるように時間についてはゆとりを持つよう計画している。また、室内に仕切りを設けて集中できる環境を整えるなど利用者の特性に配慮して工夫している。

評点	A
標準項目	日中活動メニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている
	利用者が活動しやすい環境を整えている
	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3. 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

本部の栄養課と協力してバランスのとれた、おいしい食事を提供している

食事は利用者の大きな楽しみであり、おいしい食事を提供するよう努めている。法人本部の栄養課の管理のもとに業務は業者に委託している。毎月、本部栄養課、業者と給食委員会を開催して献立等について検討している。献立は栄養のバランスを考慮し、利用者の嗜好調査の結果や職員の検食結果（毎食）を参考にバラエティにも配慮している。また、栄養士や調理師が利用者の食事をしている様子を見て廻り、直接利用者の意向を聞いて献立や調理の参考にしてしている。選択食、歳時食、行事食も提供している。

利用者の個別事情に合わせて刻み食や治療食、代替食を提供している

利用者の嚥下能力に合わせた食事形態（刻み食など）、治療食（糖尿病や塩分制限）、代替食（アレルギーなど）など利用者の個別事情に対応して食事を提供している。食事の際には介助の必要な利用者には職員が交代で支援している。また、利用者の状況を見守りながら、声かけをするなど支援している。

明るく楽しい雰囲気で食事ができるように環境を整えている

食堂は第二しいき学園の利用者と共用している。今年度改修工事を行い、廊下との仕切りを撤去し、壁・天井を塗り替えているので広々とした、明るい雰囲気の食堂である。利用者は自分の好きな席で楽しそうに食事をしている。

評点	A
標準項目	☐ 利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している
	☐ 利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている
	☐ 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

4. 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている

講 評

日常生活上の支援は一日の生活リズムを身につけるよう個別支援計画をもとに行っている

日常生活上の支援については、利用者の状況に応じて支援プログラムを作成している。利用者には一日の生活リズムを身につけるよう支援している。障害が重度のために家庭での入浴が困難な利用者には入浴サービスも提供して支援している。

身の回りのことはできる範囲で自分でやるように促しながら支援している

排泄、移動、着替え、歯磨きなど身の回りのことについては、利用者の状況を把握して、できる範囲は自分でやるように促しながら支援するよう心がけている。

評点	A
標準項目	☐ 利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている
	☐ 必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

定期健康診断や精神科医による健康相談を実施して、結果を利用者・家族に伝えている

年2回、定期健康診断を行い、その結果は家族に知らせている。また、毎月、精神科医（嘱託医）に来てもらって健康相談を実施している。日常的には看護師が利用者・家族の相談に対応している。必要に応じて、通院や服薬に関する助言や支援も行っている。

服薬チェック表により誤りなく服薬できるよう支援している

服薬については、看護師が服薬チェック表を作成して、利用者の氏名と薬を確認して誤りなく服薬できるように支援している。

日頃から利用者の健康状態を把握し、急な体調変化にも対応できるよう体制を整えている

利用者の健康状態については、年度当初に家族に記入を依頼して健康チェック表を提出してもらっている。日常的には、看護師が登園時に顔色をチェックするとともに連絡帳で家庭での様子を確認し、病状の早期発見・早期対応に努めている。利用者の体調変化等には、嘱託医や医療機関の協力を得て速やかに対応できるように体制を整えている。

評点	A
標準項目	○ 健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている
	○ 必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている
	○ 服薬管理は誤りがないうチェック体制を整えている
	○ 利用者の体調変化（発作等の急変を含む）に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

福栄会まつりなどいろいろな行事を行い利用者が多様な体験ができるよう支援している

行事には法人の福栄会まつり、秋まつり、忘年会、成人を祝う会、新利用者を迎える会、利用者慰労会、一泊旅行、グループ外出などのプログラムを用意して、利用者が多様な体験ができるようにしている。行事の際には利用者が飾りつけの作成や手伝いを行なっている。

施設の共用部分は利用者が交代で清掃し、清潔な環境を維持するよう努めている

施設の共用部分は作業の一つとして毎日、利用者が交代で清掃するとともに定期的に清掃業者による清掃を行って清潔な環境を維持するよう努めている。冬場の乾燥期には湿度保持のための対策を講じて過しやすい環境づくりに努めている。

利用者の意見や要望を聞く機会を設けて運営に反映するようにしている

利用者は意思表示が困難な人が多いが、利用者の意見や要望を聞く機会を設けてできるだけ利用者の意思を汲み取り、運営に反映するよう努めている。

評点	A
標準項目	○ 行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
	○ 室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
	○ 日常生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
	○ 利用者等が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようなしくみを整えている
	○ 行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

7. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

家族との連携・交流を大切にして利用者を支援している

事業計画では、家族の理解と協力により利用者に対する支援体制を充実していくとしている。家族とは連絡帳により家庭での様子、学園での様子を情報交換してお互いに連携を図るようにしている。学園連絡会を年3回、グループ参観・懇談会を年2回開催して、学園の状況や利用者の様子を家族に伝えている。また、法人の広報紙「もみじ」や学園報「しいのき報」による情報の提供も行なっている。必要により、家庭訪問、家族との面談を実施して、家族と連携して支援に取り組んでいる。

短期入所施設の情報の提供・紹介を行なっている

上記のトワイライトステイによる家族支援を行なっているほか、短期入所施設に関する情報の提供・紹介も行なっ

いる。

評点	A ⁺	
標準項目	○	家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
	○	利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている
	○	必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み	・通所施設終了後も利用してもらうサービス(トワイライトステイ)を提供して、家族に対する支援を行っている。19年度は月平均約20人が利用している。	

[このページの一番上へ](#)

8. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

短期入所施設をはじめ地域の福祉に関する情報を利用者の状況に合わせて提供している

短期入所施設に関する情報やトワイライトステイ事業・ナイスデイサポート事業（特別支援学校生の放課後支援、夏休みなど休暇期間の日中預かり支援）、区の施策に関する情報などを利用者の状況に応じて提供している。

利用者が地域の資源を利用できるよういろいろな行事や催し物の情報を提供している

利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう特別支援学校や福祉施設の行事、スポーツ大会、善意銀行の催事などいろいろな行事や催し物の情報を提供している。

評点	A	
標準項目	○	地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○	必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[▲このページのトップへ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#)

第三者評価については電話03-5206-8750、その他のお問い合わせは[こちらから](#)

[財団法人東京都福祉保健財団](#)

Copyright©2003-2009 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.